

# 算数・理科の専門講師が指導

料金 ● 1万6200円～

● 英検・TOEFL対策、インター生の補習クラスなど

マリースクール



ティア先生が、冷たい水の入った大きめのグラスと、赤く着色した湯が入った小さなグラスを前にして、子供たちに問いかけた。

“Do you think that what happens if I mix hot water and cold water?”

——湯と冷水を混ぜたらどうなるか。

ティア先生がホワイトボードに今日の課題を書く。

“PROBLEM: Do hot and cold water mix?”

マリースクールは、英語で

理科や算数を教える「麻布メソッド」の英語教室だ。「麻布メソッド」とは、英語で教科を教えるイマージョン教育とはちよつと違う。あくまで、英語を学ぶ際の素材として理科や算数を取り上げているのだ。

これまで日本の英語教育では、教材に物語を使っていた。しかし、英語で書かれた物語は、日本の子供にとって

はバックグラウンドが異なるため、いま一つ理解しにくい部分があるのです。算数や理科にはそれがありません。また、算数や理科のテキストには図や写真が多く、実験も視覚に訴えるので、英語を理解する大きな助けになります」

同スクール代表の川崎美智子先生はこう語る。加えて、日本の算数教育のレベルが高いことも、理解のしやすさを後押ししているという。

「知らない単語が出てきても、算数の知識が身につけているので、おおよそのところは理解できる。知っている、という感情が英語を学ぶ際の大きなモチベーションになるのです」

子供たちの興味・関心を引き出し、さらに深めるため、数学や自然科学の専門分野をしっかりと学んだ講師による教科担任制を採用。加えて教育の現場に立った経験のある先生も多い。

## ユニーク授業で評判

# 英語塾

## 個性派

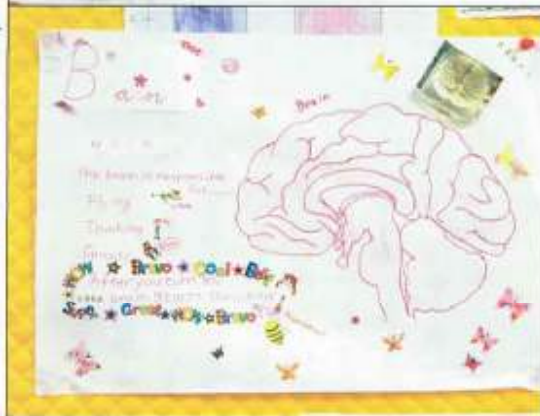
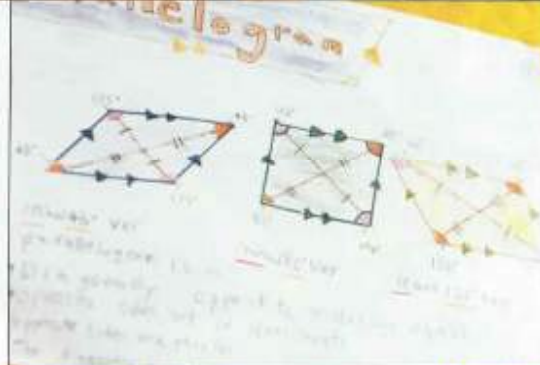




## 算数や理科のビジュアルが英語を学ぶ手助けに



右ページ：小学生の理科実験「温水に冷水を入れるとどうなるか」。実験道具の名称を英語で確認。上：中学生の理科実験「台所にある道具だけでレモネードを作ってみよう」でレモンを搾っているところ。中：算数「四角形の特徴」。下：脳のイラスト。週1回、2時間のコースで、算数と理科、英語、アクティビティを30分ずつ学ぶマリースクールでは、毎年英検にもチャレンジしている。



「か」つて帰国子女がもてはやされた時期がありました。英語を話すことができて、そこそこの発音がきれいだからです。でも、これから求められる英語力とは論理的な思考ができたうえで、表現の手段として英語を話す力。理科の授業では、「課題」「予想」「まとめ」を記すワークシートを使っています。が、こうした学習を積み重ねることで、論理的思考力も鍛えられていくのです」

また、これから世界に出ていくと

き、英語をペラペラ話せることは、それほど重要ではないとも言う。「肝心なのは言いたいことをはっきり言う強さと説得できる賢さです」とはいえ、欧米人と同じコミュニケーション力をつけるというわけではない。「よく『英語でディベートできる力を身につけさせる』といったことが言われます。でも、日本人の特性は、それには向かない。日本語は文章の最後に結論がきます。つまり、最後まで相手の話を聞く文化なのです。

それに対して英語のディベートは、相手に言い負かす語法です。どちらが優れているというのではなく、日本人として身につけた文化を守りながら、英語も使えるようになるということが理想だと思います。ここでは、たとえ英語であっても最後まで相手の話を聞く力を子供たちにつけさせたいと考えています」

物語ではなく算数と英語で。そして聞く力を大切に。日本人には日本人に向けた英語の学習方法があるのだと、川崎先生は強調した。

英語を習得する方法は一つではありません。独自の考えに基づいたユニークな指導方法の英語塾が、どんどん出てきています。お子さんにぴったりの塾、探してみませんか？

arithmetic  
science  
pronunciation  
grammar

# 巷で話題の